



■ プログラム

1. 話題提供 (20分)
提供者: 菊池実代 (山口県周南健康福祉センター)
伊藤悦子 (山口大学大学院医学系研究科 博士後期課程)
2. グループワーク (40分)
1回目 20分 → 移動 → 2回目 20分
3. 発表・まとめ (10分)

■ 参加者 28名

- 都道府県別参加数: 北海道 1, 富山 1, 東京 4, 愛知 1, 兵庫 1, 島根 1, 山口 14, 徳島 1, 香川 1, 高知 1, 福岡 1, 不明 1.
□職種別参加数: 保健所長 2, 保健所保健師 3, 市町村保健師 4, 包括保健師 1, 産業医 1, 教育関係等 17.

※ 自由集会は実行委員形式で運営し、実行委員会は保健所・市町村・出版社・教育機関等に所属する者で構成した。



1. 話題提供



2. グループワーク



3. 発表



1. 話題提供 (概要)

警察官通報対応業務を担当保健師は日常業務として遂行する中、「通報対応に追われてよいのだろうか? 全国平均でみると通報されても約半数は措置診察不要であって、通報対象者の人権は守られているのだろうか? 不必要な通報を避ける努力をさせていただこうか・・・」等通報に至らない地域づくりや予防活動が大切と感じながらそれができていないジレンマを抱えていた。

さらに、夜間休日の緊急対応も多い業務を安全に着実に遂行することを優先し、その部分は職場でもあまり語ってこなかった。本音で語り合いたい! その思いから、通報に至らなかった事例と通報を繰り返した事例の紹介、保健所における通報対応の現状や業務改善を試みた活動について、担当した2人の保健師が当時は話さなかった本音の部分を含めながら紹介した。

2. グループワーク

オープンで自由な会話ができるワールドカフェ的なグループワークとし、参加者は初めのグループワーク後に別のグループに自由に移動した。テーマは話題提供を受けて改めて業務を見つめて思う事など感想とし、参加者は各自の意見をポストイットに記入して模造紙に貼り説明した。(実際は書くより話に花が咲き慌てて記載する場面もあった)。

〈グループワークの内容〉

- 他県での対応が全然違うことに気付かされた。
- 365日24時間対応と知らなかった。指定医の当番制を作られたことはすごい。
- 保健所で地域づくりが難しくければ市町村と一緒にいけばよい。
- 市町村と保健所と連携が取れる関係づくりができればと思う。
- 全病院が退院支援をしているわけではなく、入院後のフォローが大切である。
- 知らないとこわい、住民の偏見についてどのような啓発が有効なのか。
- 地域保健の苦勞を知ることができた。
- 3次予防、個人情報をごとまで守るのか。
- 通報・措置入院制度は適切な医療を受けられる基本的人権の一つでもある。

〈全体の感想〉

- 重要なテーマだと思った。 ○事例提供があり話しやすかった。
- ワールドカフェのグループワークはとても楽しく学べた。
- ほっとした中で意見交換ができるので続けてほしいと思う。



グループワーク
模造紙



本自由集会開催にあたり、多数の方々のご参加をいただき無事終了することができました。ご協力・ご参加いただきました皆さま方に、心より御礼申し上げます。今回の話題提供を通して、全国の皆さまと警察官通報の対象者の人権を配慮した精神保健活動と予防活動・地域づくりについて活発な議論ができ、非常に有意義であったと感謝致します。今後このような機会のもと、皆さまと交流できますことを願っております。

平成28年11月吉日

代表世話人: 藤村一美

世話人: 守田孝恵, 磯村聡子, 木嶋彩乃, 兼平朋美, 斎藤美矢子, 伊藤悦子

(山口大学大学院医学系研究科 〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1 ☎0836-22-2826)